

インタビュー		アセスメント			プランニング	
情報の整理 (見たこと、聴いたこと、データなど：事実)		理解・解釈・仮説 (作成者のとらえたかた、解釈・推測)		理解・解釈・仮説② (専門的アセスメントや他者の解釈・推測)	支援課題 (支援が必要と作成者が思うこと)	対応・方針 (作成者がやろうと思うこと)
本人の表明している希望・解決したい課題 本人は登校したいとも思っているが、クラスにいるのはつらい 父の叱責が怖い 父は、本人にしっかりしてほしいと思っている 母は、父の厳し過ぎる叱責を心配している	(作成者の)おさえておきたい情報 小学生低学年から全般的な学業不振 遊びや好みが幼い 下級生と遊ぶことが多かった よく「どうせぼくなんか」と言う 授業がわからないと泣くことがあるが、 支援学級の活用を勧めると渋る 友だちに強がって見せるので、 からかわれやすい 遊びに誘われなくなり、 休み時間は独りで過ごしている 声をかけてみると、友だち関係や家族の ことをいろいろと話す 父は特別支援学級の利用を勧めた小6担任に 激怒し、帰宅後、本児を殴った 母は「お父さんが無理を言うのが心配」と と話している 担任は「怠け」「できることもやろうと しない」と強調するが、指導については SCや専門機関に相談したいと言っている からかい、ちょっかいを出す男児が数人 からかいを止めようとする女児も数人	本人	【生物的なこと】 生来的な知的発達の流れがありそう 【心理的なこと】 周囲についていけないことで傷つくことが多く、 自信をなくしていると思われる 学校生活がつらくなっているが、特別扱いされたく ないらしい（父の意向を気にしているのかも もしれない） 【社会性・対人関係の特徴】 平均的な同年代集団の中で楽しみを共有できる 機会が減ってきている 困っていることを相談できる相手がほしいらしい	子ども家庭支援センターは虐待リスクの高いケースと捉えており、要対協の対象	①養育状況と虐待リスクを把握する ②本児への心理的サポート ③味方になってくれる友だちを増やし、からかいを減らす ④本児の発達上の問題を両親と共有し、知的能力の評価と特別支援教育の活用へ	①子ども家庭支援センター 母親との定期面接 ②SCによる隔週30分の面接 友だちや家族との関係を めぐる心境を聴き、助言 ③担任に依頼し、味方派、 からかい派のメンバーと 話し合いの機会をもって もらう ④まずは母親、できれば 父親を含めた面接を設定 （父親に対して知的発達 の話題は要注意）
		環境	父は本人の知的発達の遅れを否認する傾向が 強いものと思われ、しつけや指導は感情的・ 暴力的になりやすい 母親がキーパーソン 担任は、知的発達の遅れという視点をもって いないが、助言は受け入れてくれそう クラスメイトのからかいやちょっかいは登校を 渋る一因になっていると思われるが、味方もいる らしい			
今回大づかみに捉えた本人像(100文字程度で要約する)						
スクールソーシャルワーカーとして関わっている中学1年生、男児。軽度の知的発達の遅れに気づかれず、就学環境が整っていないことが中心的な問題。もともとの本児は天真爛漫タイプであったが、中学進学後、学校生活への適応に苦しんでおり、登校渋りが生じている。父親の問題否認と虐待リスクが高いことに要注意。母親の問題認識が適確であることと、本児の援助希求性が強み。						